

みはらふくし情報

ぼらせんだより 1月



ボランティアセンター
掲示の折り紙

本年もよろしく
お願いいたします

新たな年を迎え、皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

昨年は繰り返されるコロナの増加にも負けず、感染対策を徹底して交流を続けた一年でした。今年も会ってつながりが持てることを大切にしていきたいですね。

三原市ボランティア・市民活動サポートセンターでは、活動に役立つ情報を発信し、活動されている人達がつながる場を増やし、そしてこれから活動される人をサポートする窓口として努めていきたいと思っております。



お気軽に
お立ち寄りください

とび丸とボラセン職員が隣同士でじゃんけんをしています。一番勝ったのは誰？（答えは最終ページ）

唐井

金子

吉川

平岡

松田



ボランティアをしたいけど…どうしたらいいの？

ボランティアって何？どんなことをするの？

ボランティアについて
ご相談ください！

ボランティアをしてくれる人はいるかな？

ボランティアセンターの
事業を一部紹介♪

三原市社会福祉協議会は、災害発生時に、被災地域・被災者へ生活支援を行っていくため、「三原市被災者生活サポートボランティアセンター」を設置します。

被災時の支援活動の為に「広島県災害ボランティア事前登録」をお願いします。

災害が起きた時は活動を希望する市町の案内等をメールで配信します。



登録はこのQRコードから↑↑

市民協働のまちづくりの中間支援組織として、ボランティア団体・市民活動団体・NPO法人等への情報提供や活動の需給調整をはじめ、団体間のネットワークづくりに取り組んでいます。

平成31年度から地域ビジョン策定事業の事務局として、地域の皆様と共に会議や意見交換会（ワークショップ）を開催し、地域ビジョン策定の支援をしています。

※地域ビジョンとは地域住民（住民組織）が関係団体等と共に、地域の将来ビジョンの実現に向け、住民自らが地域づくり活動を実践していくために策定するものです。



サン・シープラザ4階にボランティアセンターがあります。



紹介します 直美の部屋



直美の部屋は、2005年4月に設立し、今年で17年目を迎えました。気軽に聴けるロビーコンサートにこだわり、地元や広島県内の音楽家の協力を得て月一回のコンサートを開催しています。「みんなで三原を音楽の街に！！」をキャッチコピーに掲げ、「三原駅前の活性化に少しでも役立てれば」との思いで活動しています。

「コンサートに来た人たちが笑顔になってくれること」がうれしくて、やりがいになっています。」

令和4年10月21日（金）のコンサートの様子をご紹介します。まず、みんなで力を合わせて会場設営。この日はイスを90脚用意しました。コロナ禍前は多い時で180人の参加があったそうですよ。アルコール消毒や参加者情報の記名等、コロナ感染対策を徹底して開催しました。



コロナが原因で7回休んだものの、直美の部屋の都合で休んだことは1回もないそうです。「活動を継続するには大変なこともあるけれど、音楽が好きだから続けてこられました。」代表の三好さんの言葉に大きくうなずく会員のみなさん。あたたかい笑顔があふれました。

素敵な生演奏にうっとり♪



用意したイスはいっぱいになり、たくさんの人たちがピアノの生演奏に聴き入りました。近くで本格的な生演奏を聴けることは贅沢ですね。素晴らしい音楽の力に癒されました。

10月の演奏者は伊藤憲孝さん。国内のみならず海外でも活躍されています。この日は盲導犬チャリティーコンサートとして開催され、収益は全て日本盲導犬協会に寄付されました。伊藤さんがチャリティーコンサートを始めてから14年目だそうです。



1月のお知らせ

1月24日（火）

午後2時開演
三原ペアシティ西館
2階 多目的ホール

入場無料

シャンソン プチコンセール

瀬川澄さん

鈴木理恵さん（ピアノ）

盲導犬の仕事を知ってください



日本盲導犬協会の
すみや
角谷さんとアクア（女の子）

直美の部屋コンサートでは、日本盲導犬協会の角谷さんと盲導犬のアクアが、盲導犬のPR活動をしていました。盲導犬は目の見えない、見えにくい人が安全に歩けるようにサポートをする犬のことで、曲がり角・段差・障害物の情報を盲導犬ユーザーに伝えます。そして公共施設や交通機関、飲食店、スーパー、ホテル、病院など様々な施設で同伴することが認められています。しかし、盲導犬について知らない店から、同伴を断られてしまうケースもまだあるそうです。盲導犬ユーザーが困っている様子を見かけたら声をかけてください。

【盲導犬への接し方 注意】

- ①触らない ②見つめない ③食べ物を与えない
- 盲導犬を見かけた際には温かく見守ってください。

認知症の方の男性介護者の会 「ケアメン隆景」

認知症の人を介護する男性介護者の会「ケアメン隆景」は、男性介護者が集まり、認知症や介護に関する学習や情報交換をしています。男性介護者は、誰にも頼らず一人で介護をかかえこむ傾向があるそうです。同じ介護を経験した男同士で、介護のあり方について一緒に考え、思いを語り合える場となっています。



10月27日（木）の様子

この日は、地域包括支援センターについての学習をした後、「ケアメン隆景」の活動紹介をする記事について話し合いをしていました。体験談を添削したり、今まで活動してきた歴史を載せてはどうか？等々、掲載内容について積極的に意見が出ていましたよ。

～参加者の感想～

ここに来ると孤独が和らぎます。

介護や日常生活の情報交換ができて助かります。

介護についてどこにも相談できていない人に「ケアメン隆景」の存在を知ってほしい。

同じ境遇の同志がいるのは心強い。

他の人に介護のことを知られたくない気持ちもあるんです…

お互いの経験を語り合うことで、共感したり学びあったりする姿がありました。

【毎月の定例会】

日時：毎月第4木曜日
11時～12時

場所：サン・シープラザ
4階 第2教養娯楽室

内容：話し合い・学習会

参加費：200円

申込み：広島県東部認知症疾患

医療センター（三原病院）

電話：0848-61-5515

（担当：中島・松尾・^{とちさこ}枋迫）

点訳ボランティア「てんゆう会」 文部科学大臣表彰を受賞！

点訳ボランティア「てんゆう会」が「障害者の生涯学習支援活動に係る文部科学大臣表彰」を受賞しました。市広報や書籍等の点訳等、視覚に障害のある人に必要な情報を点字で伝え、48年間にわたり支援を続けてきた活動が認められての表彰です。

おめでとうございます！

てんゆう会のみなさんに活動に対する思いを伺いました。「今まで先輩方が頑張ってくれたことを引き継ぎ、これからも活動を続けたいです。」「正確にわかりやすく伝えることを心掛けています。」「市広報は、見える人と同じタイミングで届くようにしています。」「点訳することが好きで楽しい。」等々、喜びいっぱいの笑顔で答えていただきました。



点字カレンダー作製の様子

- 点字カレンダーは毎年作製
 - 三原に関する情報を掲載
 - 今年は「三原市の花や樹木」
- 実物はボラセンにあります！



市広報はみんなで協力して作製しています。まず、一人ずつの内容や分量を調整して仕分け、各自で点訳をします。校正後に製本し、点字の市広報が必要な人に郵送されます。



市広報の仕分け作業の様子



点訳ボランティア養成講座を開催しています。
(毎年5月頃から開催)



障害者の生涯学習支援活動に係る 文部科学大臣表彰

障害者が生涯を通じて教育やスポーツ、文化などの様々な機会に親しみ、豊かな人生を送ることができるようにすることを目的として、障害者の生涯を通じた多様な学習活動を支える活動を行う個人又は団体に対し、その活動をたたえ文部科学大臣が表彰するものです。

じゃんけん大会の勝者は？



一番勝った吉川センター長に、今年目標を聞いてみました。「まず健康第一！コロナが収まり多くの方がボラセンに来てもらえたらと思います。」

●みはら市民協働サイト つなごうねっと ●
三原のイベントや団体の情報満載！

<http://mihara.genki365.net/>

ボラセンのパソコンでご覧になれます

発行：三原市社会福祉協議会

三原市ボランティア・市民活動サポートセンター

〒723-0014 三原市城町1丁目2-1

(サン・シープラザ 4階)

電話 (0848) 67-9339

FAX (0848) 63-0599

Mail miharavs-c@m-shakyo.jp